

大正時代の商家に灯る幻想的なあかりの共演 とも

5月から7月までに3回、遠くは東京都をはじめ市内外から43人が参加し、白石和紙を使って「あかり」を作ろうと、壽丸屋敷で「白石和紙あかり製作ワークショップ」を開催。そこで製作された参加者・スタッフの作品を一堂に集め、8月10日、11日の両日、白石夏まつりに合わせて「第7回白石和紙あかり展示会」が開催されました。

主催しているのは、市民有志でつくるまちづくり団体「蔵富人」。白石「宝」の一つである「白石和紙」を守り伝えていくことで、独自のまちづくりを目指しています。

優しい和紙のあかりは、人の心を温めてくれる



繊細でいて強靱、歴史的な存在感あふれる風合い、作り手の息吹を感じる温かさ
一枚一枚を丹念に仕上げるからこそ生まれる、味わい深い世界を垣間見させてくれる、それが白石和紙…